

平成 29 年度物療校友会学術部放射線部会一泊研修会 報告書

日時 : 平成 29 年 11 月 4 日(土) 16:30 ~ 11 月 5 日(日) 12 : 00

場所 : 研修施設 (まなびやの森・かつらぎ)

報告者 : 大阪医療センター 西牧晃二

プログラム

1 日目

発表① : 『遠隔画像診断システムの導入運用の報告』

国立病院機構 奈良医療センター 的場 徹 先生

発表② : 『当院の血管撮影時における被ばくの線量の実態調査について』

国立病院機構 大阪医療センター 西牧 晃二 先生

特別講演① : 『研究への道 2』

大阪物療大学 准教授 西浦 素子 先生

2 日目

発表③ : 『脳外科の手術に用いられる画像処理について』

多根総合病院 夏日 勇人 先生

基礎講演① : 『手関節 当たり前の撮影法』

永寿会 福島病院 木下 淳一 先生

基礎講演② : 『①頭部外傷/②地域病院での放射線技師の役割』

白杵市医師会立コスモス病院 赤嶺 亮三 先生

基礎講演③ : 『前立腺がん V-MAT における腸管ガスの治療への影響』

近畿大学医学部附属病院 西 環 先生

はじめまして、物療校友会学術部放射線部会幹事の西牧晃二です。
今回は奈良県葛城市にある「まなびやの森・かつらぎ」にて平成 29 年度
物療校友会学術部放射線部会一泊研修会を開催させて頂きました。

雨続きの週末でしたが、久々の晴天の中、勉強会を開催することができました。

1 日目の若手技師による発表では、物療大学同窓会会長の的場先生と私がお話しさせて頂きました。的場先生は「当院における遠隔画像診断システムの導入運用の報告」に関して発表されていました。読影医の少ないなか、またこれからの画像診断における新たな未来について、セキュリティ面や運用にあたり問題点や改善点をお話しさせて頂きました。私は「当院の血管撮影時における被ばく線量の実態調査」についてお話させて頂きました。慣れない発表でしたので緊張した部分もありましたが、最後まで滞りなくでき、よかったと思います。

特別講演には大阪物療大学の西浦先生をお招きし、研究に関するご講演をして頂きました。以前一泊研修会でお話しされた内容を踏まえて、どういった研究をしてきたのか、またどういう風に研究を進めていくのかをお話し頂きました。最後に目標を達成したらそこで終わりではなく次の目標を目指すことが大切であると教えて頂きました。

情報交換会では西浦先生やたくさんの参加者と意見交換会を行うことができ楽しく有意義な 1 日目となりました。



講演会場



放射線部会会長 宮原



特別講演講師 西浦 先生



夕食

2日目は、1演題目に夏日先生が「脳外科の手術に用いられる画像処理」について発表していただきました。医師がどのような画像を求めているか動画も踏まえてわかりやすく解説していただきました。2演題目の木下先生からは手関節の撮影についてお話して頂きました。正しいポジショニングで撮影ができないとなぜだめなのか、画像を提示しながら解説してくださいました。一枚の撮影に様々な考えが含まれていることに大変驚きました。3演題目には、大分からお越しいただいた赤嶺先生に「頭部外傷の症例検討と地域病院での放射線技師の役割」に関するお話しをして頂きました。地域における放射線技師の役割は決して小さなものではなく、その地域の医療を向上させる大切な人材であると思いました。最後の講演では西先生にご自身の研究内容も踏まえた治療に関するお話しをして頂きました。アンケートを通して臨床と研究のどちらが大切なのか非常に考えさせられる講演でした。

2日間を通して、様々な発表や意見を聞くことができ、意義のある一泊研修となりました。来年度も開催予定ですので、一人でも多くの方に参加していただければ幸いです。

また次回の勉強会は2018年の2月を予定しております。詳細が決まり次第HPにも更新させていただきますので、たくさんの御参加をお待ちしております。

